

「世界」の強さを、見てみたい

第七中学校 ロイド珠里亜さん

私は荒川区で生まれ、荒川区で育ちました。父はイギリス出身ですが、私はこれまでずっと日本で暮らしています。幼いころは、荒川自然公園の交通園が好きで、ゴーカートや一輪車で遊んでいました。

水泳は、保育園に通っていたときに母の勧めで始めました。母はとても尊敬できる人です。勉強熱心で、私の体調管理のために栄養について学び、健康に気を配りながら毎日のご飯を作ってくれます。

学校では、休み時間に友人との会話を楽しんでいます。勉強は嫌いではないので、コロナが落ち着いた学校に行けるようになったときは、やっと勉強ができるという気持ちでした。

私が特に力を入れて取り組んでいる水泳では、さまざまな人に出会い、視野を広げることが



できました。一番うれしかったことは、「JOCジュニアオリンピックカップ2019」の4×50mメドレーリレーで準優勝したこと。私はアンカーだったので、とても緊張しましたが、途中で上位ではなかったのですが、みんなで少しずつ追い上げ、私の番がきました。「メダルを取れなかったら」という不安もありましたが、「最後まで諦めず、一人でもいいから追い抜こう」と、無心で泳ぎ

切りました。ゴールタッチをしたときに聞こえたチームメイトの歓声は忘れられません。みんなで勝ち取った銀メダルなので、すごくうれしかったです。リレーでしか味わえない「仲間との強い絆」を改めて感じました。

将来の夢は、水泳で世界大会に出場することです。「世界」を自分自身の目で見て、その強さを体感してみたいです。

みんなとともに、人や街を動かす

生まれは京都府で、小学2年生くらいのときに神戸に引っ越しました。大学卒業後に東京に出てきて、現在は荒川区に住んでいます。

自分がお世話になった街で地



域活動をしたいと思い、「荒川区で何かできないかな」と、荒川コミュニティカレッジに通いました。

荒川区に住んでみて、いいなと思ったところは、人と人との距離が近く、地域コミュニティがしっかりとしているところですね。また、銭湯や商店街、観光スポット等、派手じゃないかもしれないけど、良いところがたくさんある。地域情報サイトである「荒川102」(<https://arakawa102.com>)は、そのよ

うな街の魅力を、私みたいに区外から来た人を知るきっかけになればと思い、荒川コミュニティカレッジのメンバーと立ち上げました。

取材をしていると、さまざまな方と出会います。私たちが書いた記事を読んだ取材先の方が「自分の記録が残った」と喜んでる姿を見ると、とてもやりがいを感じます。

荒川102の運営には、20～30人の方々が関わっています。皆さんボランティアなので本業も

荒川102 中里 昇吾さん

あり、なかなか集まらないことが悩みですが、その反面、バックグラウンドの違うメンバーだからこそつくることができた記事や企画もあります。一人では絶対にできないこともできてしまう。みんなで活動できるっていいな、と思っています。

今後も、企業のPRのお手伝いや、地元にある地域資源を活用した、「あらかわ都電バブル」「イート荒川」のように、人や街を動かすイベントを続けていきたいです。



©YDB



©YDB

いつでも帰りたい、大切な場所

横浜 DeNA ベイスターズ 山崎 康晃選手

生まれは荒川区で、子どものころの夢はプロ野球選手でした。

野球を始めたきっかけは、同じ荒川区出身で元プロ野球選手の森本稀哲さんに影響を受けたことです。近所でキャッチボールをしてもらったり、プロ野球のキャンプ地に連れて行ってもらったりしました。

子どものころは、西日暮里ひ

ろば館でドッジボールをしたり、西日暮里六丁目公園で追いかけて遊んでいました。冠新道の商店街にもよくご飯を食べに行きましたし、野球の練習では、南千住野球場や荒川の土手にある少年運動場にも行きましたね。

野球はチームスポーツなので、僕はチームメイトとのコミュニケーションを大切にしています。

勝利に向かってみんなで1つのボールを追いかけていることが楽しいですね。練習をしてもなかなか結果が出ないこともありますが、そのときは、特に意識的にコミュニケーションをとって、みんなでカバーし合うことを心がけています。

荒川区の皆さんには、いつも声援をいただいています。苦しい時期もありましたが、応援してくれる皆さんや支えてくれる家族がいたから乗り越えられました。荒川区は優しい人が多く、心温まる大好きな街です。僕を成長させてくれた原点であり、いつでも「帰りたい」と思わせてくれる大切な場所です。これからも、皆さんに元気と夢を届け続け、野球を通じて恩返しをしたいです。



©YDB

夢かなえるまち
あらかわ

皆さんの「夢」は何ですか。
「夢」の実現は、簡単ではないかもしれませんが、その途中で、自身を支えてくれる「仲間」と出会い、一步一步進んでいくことができます。明るい未来へ、「あらかわ」からはばたこう。

【問合せ】広報課広報係 ☎内線 2132

繊維街を、線ではなく「円」に

私は葛飾区に生まれ、以前は飲食関係の仕事に就いていました。その後、実家の会社で働かないかと話があったため、家業である日暮里繊維街のお店に勤めることとなりました。

繊維街の良さは、「みんなで盛り上げていこう」という意識が高いところです。自分のところに在庫がない場合でも、ほかのお店を紹介する。地域で服飾のお店が多いからこそできることですね。

以前は、私自身が英語を話せるようになるくらい、観光やビジネスで海外から多くの方が繊維街を訪れていました。しかし、コロナ禍となってからは、そうした方々はほとんどいなくなっていました。

3密を避けるためにセールもできない状況でしたが、「今、繊維街として何ができるのか」を繊維街の仲間と考え、荒川区のお店が多いからこそできること。マスクの材料を送りました。ほ

かにも、繊維街ホームページでのマスクの作り方紹介、マスコットキャラクター『にっぼりん』の塗り絵コンテスト、YouTubeでの手芸動画の公開等、さまざまな取り組みを行いました。

1月25日(月)には、繊維街のランドマークとなる「ふらっとにっぼりん」がオープンします。お互いに情報共有を行い、協力して繊維街を盛り上げていければと思っています。より多くの

同業者や関連業者の皆さんに日暮里中央通りを中心に集まっていただき、繊維街を「線」ではなく「円の形」に拡充していきたいです。

